



優秀賞 北海道真狩高等学校

有機分会

地域資源を活用した生物の力で持続可能な作物生産の研究
～炭素循環における無肥料栽培の科学的検証～

「自然豊かな真狩の農村風景を残したい」という想いで、「自然の中で植物が育つ仕組みを地域資源で再現した農業生産」に取り組んでいます。産業廃棄物となるきのこの廃菌床ともみ殻を農家等から寄与していただき、混ぜたものを畑の上に敷くだけでサツマイモを栽培しました。収量は全国平均以上となり、収穫の容易さなど、大きなメリットがありました。



優秀賞 愛知県立安城農林高等学校

土壌研究研修班

トマト副産物を活用したBSFによる
資源循環型食料生産プロジェクト

ミニトマト栽培で発生する茎などの副産物を、ブラックソルジャーフライ (BSF) というハエの幼虫に食べさせて再資源化する研究を行っています。副産物をBSFが分解し、高タンパク飼料に変えられました。さらに、その飼料をティラピアの養殖に利用し、排泄物で空芯菜を育てることで、「トマト→BSF→魚→野菜」という循環を実証しました。持続可能な食料生産モデルの確立を目指していきます。



優秀賞 京都府立桂高等学校

菌類研究班

コーヒー残渣を活用した循環型農業の実現に向けて

京都で排出量の多いコーヒー残渣を活用した循環型農業の実現に向けて活動しています。コーヒー残渣を培地の基材として活用した、きのこの菌床栽培が可能であることはわかっていました。しかし、このままではきのこの収穫後に残る廃菌床は廃棄されてしまいます。そこで、この廃菌床を堆肥化して畑に施肥することで資源を最後まで活用し、地域社会も巻き込んだ活動になることを目標としています。



優秀賞 広島県立世羅高等学校

ヒョウモンモドキ保全班

「絶滅危惧種ヒョウモンモドキの保護プロジェクト」
～通年飼育への挑戦～

地域の保全活動に携わる方々と協力し、絶滅危惧種であるヒョウモンモドキの保護活動を行っています。主な取組みは、飼育に必要となるアザミの栽培、ヒョウモンモドキの試験飼育、生息地の管理です。これらの取組みの結果、ヒョウモンモドキの通年試験飼育に成功し、66匹が羽化するなど高い成果を上げました。地域と連携した保全活動の継続と拡充を目指しています。



優秀賞 岡山県立高梁城南高等学校

グエツ・ゲゲゲのブッポウソウさんのオーケストラ・グエツ
絶滅危惧種！？高梁の青いアイドルを守れ！
～幸せを運び、未来をつなぐ～

高梁市に飛来する絶滅危惧種のブッポウソウを守り、その魅力を地域へ発信するために活動しています。高梁野鳥の会と協力し、生態講義の開催、標識調査・行動観察などの調査を実施しました。また、市内小学生を招いた観察会ではガイド役を務め、子どもたちの自然への関心を高めました。世代を超えて自然と人をつなぎ、地域ぐるみで希少種を守る仕組みづくりに挑戦しています。



優秀賞 愛媛県立大洲農業高等学校

チーム Bashi Farm Innovators

「バショウ× Re:Design」
～地域資源を再構築する農業と文化の挑戦～

近年、多肥農業によって過剰な肥料養分が地下水を汚し、農業による環境負荷が高まっています。そこで、地域資源「バショウ」に多く含まれる無機成分に着目し、資源循環型の有機肥料の開発と生産者と消費者が連携した持続可能な農業の普及を目的として本研究を立ち上げ、5年目を迎えました。地元の農家の方々の御協力のもと、試験栽培を実施し、目に見える形で成果が表れています。



優秀賞 愛媛県立宇和島東高等学校

宇東生物部トキワバイカ班

世界に一つだけの花
～宇和島市の固有種トキワバイカツジの保全活動～

トキワバイカツジは、宇和島市にしか生育していない希少種です。この希少種を守りたいという思いから研究を開始し、現在は生育地の光環境と土壌環境について調べています。4年前からは、「トキワバイカ☆プロジェクト（宇和島市）」と連携して、南楽園での植樹活動や生育地での森林ボランティア活動にも取り組んでいます。希少種保全に向け、その意義は大きいと感じています。



優秀賞 鹿児島県立玉龍高等学校

鹿児島玉龍高校 Sea Flowers

環境問題を自分ごとに
「学び」×「体験」の『クリキンディ・プロジェクト』

環境問題を「自分ごと」に感じてもらうために「クリキンディ・プロジェクト」を進めています。準備した砂の中から、ピンセットでマイクロプラスチックを探す体験を中心に、学びと気づきがつながるような活動を大切にしています。これまでに多くの方が意識の変化を感じてくれました。今はこの体験を誰でも実施できるよう、採取キットや説明資料のパッケージ化にも挑戦しています。

